

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2012-240428

(P2012-240428A)

(43) 公開日 平成24年12月10日(2012.12.10)

(51) Int.Cl.	F I	テーマコード (参考)
B60N 3/10 (2006.01)	B60N 3/10 A	3B087
B60N 2/44 (2006.01)	B60N 2/44	3B088
B60R 7/04 (2006.01)	B60R 7/04 S	3D022

審査請求 未請求 請求項の数 2 O L (全 7 頁)

(21) 出願番号	特願2011-108881 (P2011-108881)	(71) 出願人	000133098
(22) 出願日	平成23年5月14日 (2011.5.14)		株式会社タチエス
			東京都昭島市松原町3丁目3番7号
		(74) 代理人	100074321
			弁理士 山田 治彌
		(72) 発明者	伊藤 康行
			東京都昭島市松原町3丁目3番7号 株式
			会社タチエス内
		Fターム(参考)	3B087 DE10
			3B088 LA03 LB03
			3D022 CA01 CB01 CC22 CC23 CD09

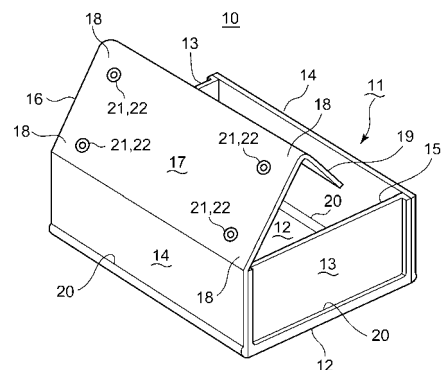
(54) 【発明の名称】 自動車に用いる大容量荷物箱

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】嵩張る荷物を多数入れることができ、自動車内で使用することも車外に持ち運んで使用することもでき、そして、不使用時には、コンパクトに折りたたんでシート・バックの背裏面に取り外し可能に格納できる大容量荷物箱。

【解決手段】底壁12に連続し、互いに隣合せて連続して設けられた両端壁13および両側壁14をその底壁の両側端に展開して立ち上げると方形箱状になり、折りたたみ状態では先端部分を折りたたみ可能な吊下げフラップ19にした蓋16が該両側壁の一方の先端から連続的に伸びて開口15を開閉するように構成された荷物箱本体11を、複数のスナップアクション・ファスナー21でその蓋16の表面17をリア・シートのシート・バックの背裏面に取り外し可能に格納する。該荷物箱本体は、該リア・シートのシート・クッション上のチャイルド・シート・アイソ・フィックスに固定することもできる。

【選択図】 図1



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

荷物箱本体が、両端壁および両側壁を互いに隣合せて連続され、そして、その両端壁を底壁の両端に、その両側壁をその底壁の両側端にそれぞれ連続的に折りたたみ可能に立ち上げて方形箱状になされ、蓋が、その先端部分を折りたたみ可能な吊下げフラップになし、そして、その両側壁の一方の先端から連続的に伸びてその荷物箱本体の開口を開閉可能になされ、そして、それらが折りたたまれ、複数のスナプーアクション・ファスナーでその蓋の表面をリア・シートのシート・バックの背裏面に取り外し可能に止めてそのリア・シートに格納され、また、そのリア・シートのシート・クッション上に置かれてチャイルド・シート・アイソ・フィックスに固定されるところの自動車に用いる大容量荷物箱

10

【請求項 2】

その荷物箱本体が、その底に方形ワイヤ・フレームをはめ込む請求項1に記載の自動車に用いる大容量荷物箱。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

この発明は、自動車に用いる大容量荷物箱に関し、詳細には、自動車内で使用でき、また、車外に持ち出して使用もでき、そしてスペースを取らずにスマートに格納可能にするところの自動車に用いる大容量荷物箱に関する。

20

【背景技術】

【0002】

ミニバンやスポーツ・ユーティリティ・ビークルなどでは、最終列のシートの後方に荷室を備え、多数の嵩張る荷物をまとめて大きな荷物箱に入れ、そして、その荷物箱をその荷室に置いて移動する。

ところが、この種の大きな荷物箱は、嵩張って格納スペースを取るもので、乗用車や軽自動車には適さない。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0003】

30

特許第3960915号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

この発明の課題は、嵩張る荷物を多数入れることができ、自動車内で使用することも車外に持ち運んで使用することもでき、そして、不使用時には、スマートにコンパクトにまとめられてスペースを取らずにシート・バックの背裏面に取り外し可能に格納できて各種の自動車に活用可能にするところの自動車に用いる大容量荷物箱を提供するにある。

【課題を解決するための手段】

【0005】

40

この発明の自動車に用いる大容量荷物箱は、荷物箱本体が、両端壁および両側壁を互いに隣合せて連続され、そして、その両端壁を底壁の両端に、その両側壁をその底壁の両側端にそれぞれ連続的に折りたたみ可能に立ち上げて方形箱状になされ、蓋が、その先端部分を折りたたみ可能な吊下げフラップになし、そして、その両側壁の一方の先端から連続的に伸びてその荷物箱本体の開口を開閉可能になされ、そして、それらが折りたたまれ、複数のスナプーアクション・ファスナーでその蓋の表面をリア・シートのシート・バックの背裏面に取り外し可能に止めてそのリア・シートに格納され、また、そのリア・シートのシート・クッション上に置かれてチャイルド・シート・アイソ・フィックスに固定される。

【発明の効果】

50

【0006】

この発明の自動車に用いる大容量荷物箱では、その荷物箱本体が、折りたたまれ、また、箱が展開されて嵩張る荷物が多数入れられ、自動車内に使用することも車外に持ち運んで使用することも可能になり、特に、自動車内で使用する場合、リア・シートのチャイルド・シート・アイソ・フィックスに固定することによってそのリア・シートのシート・クッション上に移動できないように置いて使用することができて使い勝手が向上され、そして、不使用時には、薄く折りたたまれてスマートにまとめられて格納スペースを取らずにその全体がその蓋でシート・バックの背裏面に取り外し可能に取り付けられてそのシート・バックのその背裏面に嵩張らずにコンパクトでスマートに格納され、それに伴って各種の自動車に適応可能になる。

10

【図面の簡単な説明】

【0007】

【図1】ミニバンに活用されるところのこの発明の自動車に用いる大容量荷物箱の具体例を示した斜視図である。

【図2】そのミニバンのリア・シートにおいてシート・バックの背裏面に格納された状態でその大容量荷物箱を示した斜視図である。

【図3】そのシート・バックのその背裏面において展開状態でその大容量荷物箱を示した斜視図である。

【図4】そのリア・シートのシート・クッション上で使用する場合のそのリア・シートから分解して展開状態でその大容量荷物箱を示した分解斜視図である。

20

【図5】車外持ち運び時、取り出した状態でその大容量荷物箱を示した斜視図である。

【発明を実施するための形態】

【0008】

この発明の自動車に用いる大容量荷物箱は、荷物箱本体が、両端壁および両側壁を互いに隣合せて連続され、そして、その両端壁を底壁の両端に、その両側壁をその底壁の両端にそれぞれ連続的に折りたたみ可能に立ち上げて方形箱状になされ、蓋が、その先端部分を折りたたみ可能な吊下げフラップになし、そして、その両側壁の一方の先端から連続的に伸びてその荷物箱本体の開口を開閉可能になされ、そして、それらが折りたたまれ、複数のスナプーアクション・ファスナーでその蓋の表面をリア・シートのシート・バックの背裏面に取り外し可能に止めてそのリア・シートに格納され、また、そのリア・シートのシート・クッション上に置かれてチャイルド・シート・アイソ・フィックスに固定される。

30

そして、その荷物箱本体が、その底に方形ワイヤ・フレームをはめ込む。

【実施例1】

【0009】

以下、特定されて図示された具体例に基づいて、この発明の自動車に用いる大容量荷物箱を説明するに、図1ないし図5は、ミニバンに活用されるところのこの発明の自動車に用いる大容量荷物箱の具体例10を示し、そして、この大容量荷物箱10は、その底に方形ワイヤ・フレーム20をはめ込んで剛性を出す構造で複数のブック片を縫い合わせて折りたたみ展開可能で嵩張る荷物を多数入れて持ち運びできる製品に作られ、そして薄い形に折りたたんでリア・シート30の左右のシート・バック32、33の一方32の背裏面36に格納可能に活用される。

40

【0010】

このミニバンでは、そのリア・シート30は、ベンチ型シート・クッション31、その左右のシート・バック32、33、および左右のヘッドレスト34、35などで組み立てられ、そのシート・クッション31がそのミニバンのフロアに据え付けられ、その左右のシート・バック32、33がそれぞれリクライニング・デバイス（図示せず）でそのシート・クッション31に前倒しおよび角度調整可能に支持され、そして、その左右のヘッドレスト34、35が、その左右のシート・バック32、33の上面に対応的に取り外し可能に取り付けられる。このリア・シート30は、さらに、その左のシート・バック32の

50

下端でそのシート・クッション 31 の後端に一对のチャイルド・シート・アイソ・フィックス 40、40 を備え、そして、そのチャイルド・シート（図示せず）がそのチャイルド・シート・アイソ・フィックス 40、40 でロックされてそのシート・クッション 31 上に装着できるようになされている。

【0011】

さらに詳細に述べるに、この大容量荷物箱 10 では、荷物箱本体 11 が、両端壁 13、13 および両側壁 14、14 を互いに隣合せて連続され、そして、その両端壁 13、13 を底壁 12 の両端に、その両側壁 14、14 をその底壁 12 の両側端にそれぞれ連続的に折りたたみ可能に立ち上げて方形箱状になされ、蓋 16 が、その先端部分を折りたたみ可能な吊下げフラップ 19 になし、そして、その両側壁 14、14 の一方 14 の先端から連続的に伸びてその荷物箱本体 11 の開口 15 を開閉可能になされ、そして、それらが折りたたまれ、4 個のスナプーアクション・ファスナー 21、21、21、21 でその蓋 16 の表面 17 をリア・シート 30 のシート・バック 32 の背裏面 36 に取り外し可能に止めてそのリア・シート 30 に格納され、また、そのリア・シート 30 のそのシート・クッション 31 上に置かれてそのチャイルド・シート・アイソ・フィックス 40、40 に固定される。

10

【0012】

その方形ワイヤ・フレーム 20 は、その荷物箱本体 11 にはめ込まれ、その底壁 12 とその両端壁 13、13 との間と、その底壁 12 とその両側壁 14、14 との間とで袋縫いされて一体化され、そして、その荷物箱本体 11 に剛性を与える。

20

【0013】

そのスナプーアクション・ファスナー 21、21、21、21 は、ソケット 22 およびヘッド形ボタン 23 の組合せでそのソケット 22、22、22、22 がその蓋 16 のその表面 17 に開口されてその蓋 16 のコーナー 18、18、18、18 に取り付けられ、一方、そのヘッド形ボタン 23、23、23、23 がその左のシート・バック 32 のバック・ボード 37 の表面 38 に突き出されてそのバック・ボード 37 のコーナー 39、39、39、39 に取り付けられ、そして、図 2 に示したように箱全体 10 を折りたたんでその左のシート・バック 32 のその背裏面 36 に格納するのに活用されたり、また、図 3 に示したようにその格納状態から使用状態にその荷物箱本体 11 を展開させてそのミニバンの荷室 40 において嵩張る荷物 50、51、52 を入れるのに活用され、さらには、図 4 に示したようにその左のシート・バック 32 のその背裏面 36 から箱全体 10 を取り外してその左のシート・バック 32 側にそのシート・クッション 31 上にのせてそのチャイルド・シート・アイソ・フィックス 40、40 に固定させてそのシート・クッション 31 上に活用されることができ、また、図 5 に示したようにその左のシート・バック 32 のその背裏面 36 から箱全体 10 を取り出して車外に持ち運びできるようにも活用される。

30

【0014】

したがって、この大容量荷物箱 10 は、不使用時、先ず、その両端壁 13、13 がその底壁 12 上に折りたたまれ、次に、その両側壁 14、14 がその折たたまれた両端壁 13、13 上に折りたたまれてその蓋 16 がその吊下げフラップ 19 をその底壁 12 の外側に折り曲げられてその箱全体 10 が薄く折りたたまれてスマートにまとめられ、その折たたみ状態でその蓋 16 のその 4 個のソケット 22、22、22、22 をそのリア・シート 30 のその左のシート・バック 32 のそのバック・ボード 37 のその 4 個のボタン 23、23、23、23 に対応的にかみ合わせてその箱全体 10 がその蓋 16 でその左のシート・バック 32 のその背裏面 36 に取り外し可能に取り付けられ、図 2 に示されたようにその左のシート・バック 32 のその背裏面 36 に嵩張らず格納スペースを取らずにコンパクトでスマートに格納される。

40

【0015】

また、この大容量荷物箱 10 は、図 3 に示されたようにその蓋 16 でそのバック・ボード 37 に取り付けられた状態でその荷物箱本体 11 をその荷室 40 に展開させてその荷物箱本体 11 に嵩張る荷物 50、51、52 を入れてそのミニバン内で活用され、そして、

50

特に、そのようにそのミニバン内で使用する場合、図4に示したようにそのリア・シート30のそのチャイルド・シート・アイソ・フィックス40、40に固定することによってそのリア・シート30のそのシート・クッション31上に移動できないように装着させて活用でき、使い勝手が向上される。そしてさらに、図5に示されたようにそのバック・ボード37からその蓋16を取り外すことによってそのままそのミニバンの外に持ち運んで車外で活用される。

そのようにして、この大容量荷物箱10は、ミニバンやスポーツ・ユーティリティ・ビークルのみならず種々の自動車に適応され活用される。

【0016】

先に図面を参照して説明されたところのこの発明の特定された具体例から明らかであるように、この発明の属する技術の分野における通常の知識を有する者にとって、この発明の内容は、その発明の性質(nature)および本質(substance)に由来し、そして、それらを内在させると客観的に認められる別の態様に容易に具体化される。勿論、この発明の内容は、その発明の課題に相応し(becommensurate with)、そして、その発明の成立に必須である。

【産業上の利用可能性】

【0017】

上述から理解されるように、この発明の自動車に用いる大容量荷物箱は、荷物箱本体が、両端壁および両側壁を互いに隣合せて連続され、そして、その両端壁を底壁の両端に、その両側壁をその底壁の両側端にそれぞれ連続的に折りたたみ可能に立ち上げて方形箱状になされ、蓋が、その先端部分を折りたたみ可能な吊下げフラップになし、そして、その両側壁の一方の先端から連続的に伸びてその荷物箱本体の開口を開閉可能になされ、そして、それらが折りたたまれ、複数のスナップ・アクション・ファスナーでその蓋の表面をリア・シートのシート・バックの背裏面に取り外し可能に止めてそのリア・シートに格納され、また、そのリア・シートのシート・クッション上に置かれてチャイルド・シート・アイソ・フィックスに固定されるので、この発明の自動車に用いる大容量荷物箱では、その荷物箱本体が、折りたたまれ、箱が展開されて嵩張る荷物が多数入れられ、自動車内に使用することも車外に持ち運んで使用することも可能になり、特に、自動車内で使用する場合、リア・シートのチャイルド・シート・アイソ・フィックスに固定することによってそのリア・シートのシート・クッション上に移動できないように置いて使用することができて使い勝手が向上され、そして、不使用時には、薄く折りたたまれてスマートにまとめられて格納スペースを取らずにその全体がその蓋でシート・バックの背裏面に取り外し可能に取り付けられてそのシート・バックのその背裏面に嵩張らずにコンパクトでスマートに格納され、それに伴って各種の自動車に適応可能になり、その結果、各種の自動車にとって非常に有用で実用的である。

【符号の説明】

【0018】

- 10 大容量荷物箱
- 11 荷物箱本体
- 12 底壁
- 13 端壁
- 14 側壁
- 15 開口
- 16 蓋
- 17 表面
- 18 コーナー
- 19 折りたたみ可能な吊下げフラップ
- 20 方形ワイヤ・フレーム
- 21 スナップ・アクション・ファスナー
- 22 ソケット

10

20

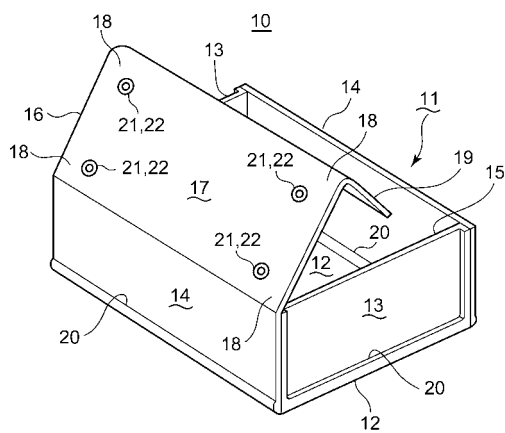
30

40

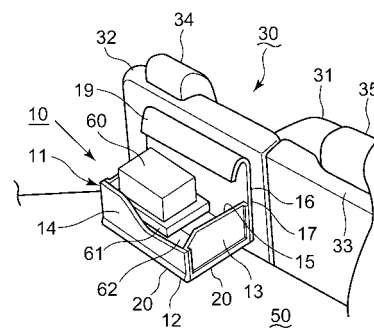
50

- 2 3 ヘッド形ボタン
- 3 0 リア・シート
- 3 1 ベンチ型シート・クッション
- 3 2 左のシート・バック
- 3 3 右のシート・バック
- 3 4 左のヘッドレスト
- 3 5 右のヘッドレスト
- 3 6 背裏面
- 3 7 バック・ボード
- 3 8 表面
- 3 9 コーナー
- 4 0 チャイルド・シート・アイソ・フィックス
- 5 0 荷室
- 6 0 嵩張る荷物
- 6 1 嵩張る荷物
- 6 2 嵩張る荷物

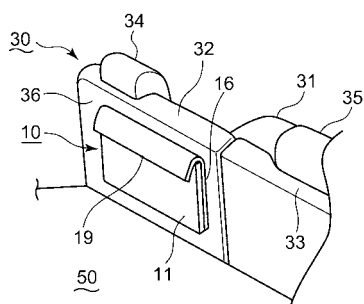
【図 1】



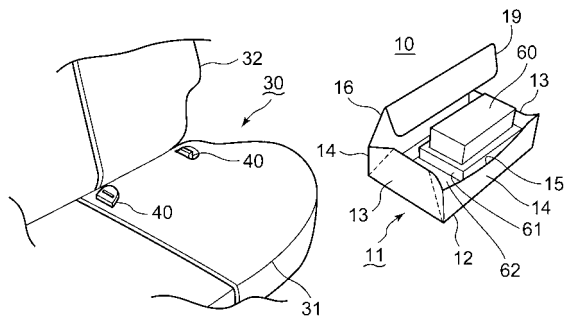
【図 3】



【図 2】



【図 4】



【図 5】

